

いちのせきし 一関市バイオマス産業都市構想の概要

岩手県一関市、人口約12.4万人、面積約12.6万ha

構想の概要

一関市に豊富に存在する畜産及び木質バイオマスの活用により、エネルギー、物、お金を市内で循環させることで、バイオマス利活用の仕組みを地域に根付かせ、資源・エネルギー循環型のまちづくりを目指す

1. 将来像

- ① エネルギーとそれを生み出す費用が地域内で循環し、地域全体が潤うまち
- ② 全ての地域住民が恩恵を受ける仕組みを構築し、地域の新たな産業としてバイオマスの利用が定着するまち
- ③ 放射性物質の課題を克服し、エネルギーを供給できるまち
- ④ 近隣の市町との共生による、災害に強くエネルギーを自給できるまち
- ④ 地域のバイオマスを活用する担い手を育成し、持続可能な地域社会を次世代に繋ぐまち

3. 目標(10年後)

- ① バイオマスの目標利用率
 - ・廃棄物系バイオマス:92.5%(現在82.0%)
 - ・未利用系バイオマス:90.7%(89.2%) ※()は現状の利用率
- ② バイオマスの利活用効果(エネルギー)
 - ・電力:1,111,060kWh/年、熱:12,588,200MJ/年

5. 実施体制

- ・市の既存組織である「一関市資源エネルギー循環型まちづくり推進本部」が構想の進捗管理等を実施
- ・「バイオマス産業化推進会議」が各PJの報告を受け、助言
- ・木材利用については、「木材カスケード利用協働協議会」を設置

2. 事業化プロジェクト

- ① 畜糞等を原料としたバイオガス発電プロジェクト
 - ・家畜排せつ物から電気、熱、堆肥を製造[民間]
- ② 小規模木質ガス化プラントによる熱電供給事業
 - ・木質バイオマスから電気、熱を製造[民間]
- ③ 公共施設等への木質バイオマスボイラー普及促進事業
 - ・燃料チップから熱を製造[市及び民間]
- ④ 木質チップ製造事業
 - ・民有林から燃料チップを製造[市]

4. 地域波及効果

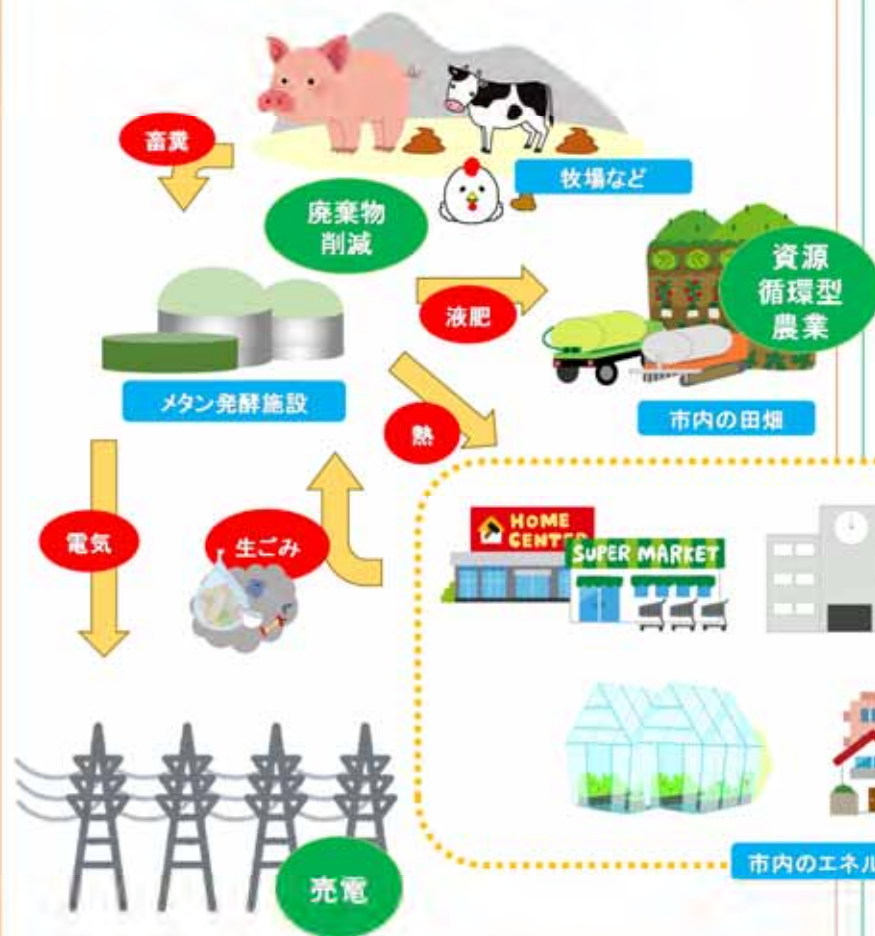
- ① 経済波及効果:31.6億円(総務省産業連関分析シートより)
- ② 新規雇用創出効果:73名
- ③ 地域経済の活性化:
 - ・チップ販売額:3.2億円、売電:8.5億円
- ④ バイオマスエネルギー利用による化石燃料代替量及び費用
 - ・電気:2,130Mwh/年、3.3億円/年
 - ・熱:1,520千MJ/年、285万円/年
- ⑤ 温室効果ガス排出削減量:8,424t-CO₂/年
- ⑥ 木材の新規需要創出:58,437m³/年

6. その他

一関市総合計画前期基本計画(H28-32)、一関市農業振興地域整備計画(H23-32)、一関市森林整備計画(H24-33)、一関市環境基本計画(H19-28)、一関市一般廃棄物減量基本計画(H24-28)、一関市資源・エネルギー循環型まちづくりビジョン(H27-32)

岩手県一関市 バイオマス産業都市構想の概要

①畜糞等を原料としたバイオガス 発電プロジェクト



- ②小規模木質ガス化プラントによる熱電併給事業
- ③公共施設等への木質バイオマスボイラ普及促進事業
- ④木質チップ製造事業



<将来像>

- ①エネルギーとそれを生み出す費用が地域内で循環し、地域全体が潤うまち
- ②全ての地域住民が恩恵を受ける仕組みを構築し、地域の新たな産業としてバイオマスの活用が定着するまち
- ③放射性物質の課題を克服し、エネルギーを供給できるまち
- ④近隣の市町との共生による、災害に強くエネルギーを自給できるまち
- ⑤地域のバイオマスを活用する担い手を育成し、持続可能な地域社会を次世代に繋ぐまち

